

5年生「スーパーグローバル」IDEC 連携プログラム

第3回実施報告

日時：2016年10月22日（土）13:00-16:00

場所：広島大学附属福山中高等学校内情報教育棟 マルチメディアホール

参加者：生徒11名、留学生8名、大学教員1名、JICA職員1名、教員4名

実施内容

第3回 IDEC 連携プログラムの柱は第1回と同様である「Human Activity & Environment」「Agriculture」「Poverty & Economics」でした。今回は生徒が5分間の中でプレゼンテーションを行い、その発表に対して質疑応答する時間もとりました。プレゼンテーションを始める前に、広島大学の中矢先生がプレゼンテーションをするにあたってのアドバイスをくださいました。また、生徒の発表が終わり、留学生から質問されて言い淀んだ場面では、「まず質問された内容を繰り返して言うことが大事である。Thank you. فقطだと、自分の理解度が相手に伝わらないから。」といったアドバイスをもらいながら、生徒たちは発表の仕方を見て学ぶことができました。

第2部では、Web mapping を用いながら、「その問題の原因は何が関係しているか」、「直接的でも間接的でもいいので関連することからは何か」を考えながらグループ内で意見を出し合いました。これまでのディスカッションでは、グループに位置づいた留学生とだけ話をしてきましたが、今日は15分間でディスカッションを行う相手を変えながら留学生全員と関わる機会を設定しました。第1回で参加した留学生だったことと、少人数という話しやすい環境があったことで、生徒から積極的に意見を述べる姿が目立ちました。

第3部の発表会では、考えをまとめた Web mapping を用いながら、話し合った内容とその結論を英語で説明しました。広島大学の中矢先生が講評の中で、今日の議論の中で大切なことは、日本人としてではなく、またベトナム人としてでもなく、特定の国ではなく、地球市民という立場で物事を議論したことが大切だということに触れて話をしてくださいました。この IDEC 連携プログラムで行う議論では、まとめや結論を出すこともあるけれど、その結論に至るまでのプロセスのあり方を学ぶ機会でもあることを教えてくださいました。議論することを通して、今までにはなかった新しい視点に出会い、自分の考えとの相違に気づき、相手の考えやその国にある文化を尊重していくことこそ、これからのグローバル社会で生きていくために必要な資質や能力であると感じました。今回は少人数での議論が実現できたため、深い話ができグループが多かったように思います。参加者の声を紹介します。



【参加者の声】

- やはり外国の人達は日本人とは違う視点から物事を見ていて、新鮮な意見を聞いて良かったです。次回はもう少し議論の主導権を握りたいです。
- いかに僕たちが自分の固定観念にしばられているかよく分かりました。日本では鯨は食べるがペットは食べない。一方で、ベトナムでは鯨は食べないが、abandoned pets を食べる文化があるなど論理だけでは通じないこともあることが分かりました。
- 「もう少し英語が話せたらな…」と思ったが、楽しく discussion できたからよかった。
- 自分の強い意志をもって、ディスカッションに臨んだり、相手の言っていることを理解したりする語彙力、あるいは分からないところを相手に伝えるように工夫するなどのことが必要だと思った。発表はこれまでしてきたものよりはいいものが出来たと思う。
- 問題を関連付けていくことで、何をすればどれくらいの問題が解決できそうか、とかどんなことが問題を引き起こす一番の核になっているかが見えてきた気がします。気候の問題は私があまり考えていなかったので世界からの目線での意見が聞けたと思います。
- 分からない単語が結構あって、すぐに理解できなくて、ちゃんと消化できてない部分もあるので、マップを見てもう一度内容のつながりを確認したいです。自分の意見があまり自分から言えなかったのが残念でした。私自身の研究についても話したかったけれど、IDEC のメンバーには話の流れがないと言い出せなかったのもメールなどでも質問しようと思います。
- 自分の言いたいことを英語にするのが難しかったけど、いろいろ話せて面白かったです。当たり前だと思っていたことでも、その常識が通じない国もたくさんあることに気付いて、世界で一つの合意にたどり着くのは文化的に考えて難しいことだと思いました。いい収穫が得られて良かったです。
- 捕鯨問題、すべての動物を殺すことの問題性は、相手の国の文化を知り、尊重することが大切だと身に染みてわかった。文化の違いが議論を難しくする経験はなかったから、とても貴重な時間を過ごせた。国際交流は英語の運用能力だけではなく、相手の文化を尊重する態度がとても重要だと思った。
- 捕鯨問題に代表される国際的な問題が各国間の伝統的な習慣から複雑化していることが分かった。この様な問題の「解決」というのは無理で、各国にはそれぞれの習慣があることに理解を示した上で全ての国の共通の問題を除いて相手の国を尊重するべきだと思う。ただ、基本的な倫理の問題もあり、動物の倫理、文化、持続可能性をよく考えるべきである。

